



平成26年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【光が丘地区】

平成27年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 光が丘地区自治会連合会	光が丘地区自治会加入促進事業	光が丘地区の自治会加入率は、71.16%(平成26年4月1日現在)であり、年々加入率の低下が進んでいる状況にある。加入率の低下は、新規の加入が進まないことも原因であるが、高齢化が進むに伴って、脱会者の増加も大きな要因となっている。	何のために自治会が存在するのか?自治会に関する素朴な疑問について解説書(リーフレット)を作成する。加入者へは、改めて自治会の必要性を認識してもらい、脱会者の減少に歯止めをかける。未加入者へは、自治会の役割を認識してもらい、加入促進を図ることを目的とする。	自治会加入促進リーフレット「自治会ってなあに?」を作成し、未加入者を含めた地区内全世帯へ配布する。(12000部作成)	6月16日	348,000	348,000	348,000
2 光が丘地区人材ネット設立準備委員会	知識や経験を持った人の地域活動への参加促進事業	光が丘地区まちづくり会議の第1専門部会を母体とする当委員会では、これからのまちづくりに活躍願える人材の発掘と実践活動を進めることをテーマとして検討を進めてきており、平成25年度地域活性化事業において人材募集の取り組みを行い、平成24年度までのリストと合わせて85件の人材リストが得られた。そこで、平成26年度ではさらにこの取り組みを進めるための事業を行うものである。	得られた人材リストを光が丘地区人材ネットとして活用できるよう、活用実績をつくり、地域社会への浸透をはかることが今年度事業の目的である。	分野別の登録人材の交流会を行って、人材ネットの趣旨への理解を改めてお願いし、次に人材活用のモデル事業を実施する。さらに、モデル事業の成果を掲載した人材ネットの利用についての周知を図るための広報物を発行し地域に配布する。	7月28日	120,000	120,000	120,000
3 福祉の里づくり推進委員会	若者世代の地域活動への参加促進事業	地域内にある中、高、大学に通学する若者及び地域に在住する若者世代が、地域の福祉活動について、一定の役割をもって継続的に参加できる仕組みを構築し、地域のボランティア団体、個人ボランティアと協働し、障がい者や高齢者への手助けの活動を体験して、若者世代が地域で果たすことのできる役割を理解する必要がある。	地区は65歳以上の高齢者の割合が29.4%(平成26年4月)と、市内でも1,2を争う高齢者率となっている。その中にも、毎年開催している「光が丘地区ふるさとまつり」に代表されるように、地域住民のつながりは極めて強く、「福祉コミュニティ形成モデル事業」は市内のトップを切って実施された経緯もある。しかしながら、このコミュニティの持つ強みも、次の世代に引き継がれていかなければ、益々進行していく高齢地域の将来が危ぶまれる。そこで、継続的に若者世代が地域の活動に参加することを促進しようというのがこの事業の目的である。	多数の地域イベントに若者世代が参加しやすいように、活動場所を設定し、参加することで自然に地域社会が抱える課題に気付き、自ら参加の仕方を考える機会を提供する。加えて、まちの将来を担う中学生を構成委員として、地域の将来を考える場として「こどもまちづくり会議」を設置し、独自に企画する活動事業を検討する。福祉の里づくり委員会としては、地区内の様々な団体からの要望等と取りまとめ、学校との調整を行うとともに、ボランティア参加者へは「ボランティア手帳」を配布し、若者世代のボランティア養成を行う。ボランティア参加者(中学卒業時)へは、記念品と感謝状を配布する。	7月28日	510,000	510,000	510,000

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4 光が丘フェスタ実行委員会	光が丘ふれあいいきいきフェスタ	3年間事業実施した「光が丘わが町フェスタ」、昨年度実施した「ふれあいいきいきフェスタ」を通じて、地域内における団体間の交流が盛んになり、新たな組織間連携も生まれつつある状況にあるが、核家族化や少子化に伴い、従来、家族内や地域で行われていた高齢者と子どもの交流は減少し、それぞれの世代で抱える問題が多様化している。そんな中、高齢化が進む光が丘地区では、「様々な世代に元気を与えること」とそれぞれの世代が共に活動し、お互いを理解していく交流「世代間交流」が求められている。	それぞれの世代において活動するサークル等の発表や練習の場を提供することで、「活動している喜び」を感じてもらい、他世代の活動を見ることや遊びをとした世代間の交流を図ること。また、「世代間交流」によって、子どもたちは多くの人間関係から様々なことを学び、高齢者はその能力、経験を社会的に活用する場を見つけることで、お互いの生活の質を高めることができると考える。本事業の展開は、すべての世代の人々が、お互い住んでいる人々の気持ちに寄り添いながら生活できる環境づくりをし、住みよいまちづくりを実現することを目的とする。	・公民館活動団体等のステージ発表(キッズダンス、社交ダンス、コーラスグループ等) ・遊びを通じた世代間交流コーナー(竹とんぼ・ビー玉・お手玉等の昔ながらの遊びを通しての交流) ・パークゴルフ、ペタンク等のスポーツを通しての交流コーナー ・ものづくり体験コーナー ・地域団体による展示、模擬店、バザーなど ・協賛団体、企業の展示、催事など(ミニSL、ふわふわ)	10月10日	1,800,000	1,800,000	1,800,000
5 光が丘ふれあいセンター	地域ふれあいネットワーク構築事業	(1)当地域では様々な地域活動が展開されているが、その参加者の多くに固定化がみられる。また年代別では50代以下の参加者が非常に少ない。地域活動を通して共助の精神が根付くことが期待される中において、メンバーの偏りや世代の隔たりがあるのは望ましくない。 (2)今年度になり、当センター周辺に新築の戸建てが多く建設され、若い世帯が続々と入居している。彼らの住まいに最も近い公共施設として、転居家族と地域住民とが広くふれあえる交流の機会が望まれる。	(1)仕事や子育てに忙しい世代を含めた、より多様な人々の交流。 (2)転居者と住民との信頼関係の構築。転居者を温かく迎え入れることで、共助の精神を共有し、地域コミュニティの一端を担っていただくこと。	「ふれあいクリスマスパーティー」は、光が丘地区の新規転入者を主対象とする交流事業。 「子ども工作教室」は、光が丘地区の親子を対象とする交流事業。様々な小学校に通う児童がもの造りをともに楽しみ、その保護者同士の交流を図るもの。	11月28日	168,000	150,000	150,000
						2,946,000	2,928,000	2,928,000